

シニア
の味方

柔和で冷静 利用者の生活豊かに 栄光の杜 生活相談員 木下淳さん

木下淳さん（41、八王子市）は、特別養護老人ホーム栄光の杜（日の出町平井）で生活相談員に就いて13年。施設利用者やその家族の良き相談役として活躍し、柔らかな物腰と冷静な状況判断に定評がある。

生活相談員は定員100人規模の介護施設に最低一人配置される。定員120人の同施設では、木下さんを含め介護福祉士等の資格を持つ職員3人が相談員を務めている。家族や専門職、病院などと連携を図り、利用者が安心して生活できる環境を整える仕事だ。新

たな入居者に関する情報の整理やクレーム対応なども含めると、その内容は多岐に渡る。

木下さんは高校卒業後、たまたま新聞広告で見つけた栄光の杜に入職。介護職を選んだのは「特に志があったわけではなく、働かなければ生活できないという理由からだった」と振り返る。

「仕事」と割り切って介護現場に立つ中で、自身関わった利用者ちょっとした変化を喜びと感ずるように。勧められるまま23歳で介護福祉士、その5年後にケアマネジャーの資格を取得。2011年、

生活相談員に抜擢された。

「人と話をするのが苦手な自分には向いていないと思っていた」。だが、先輩ケアマネジャーの田村泰志さんは、木下さんの相手の話を遮らず最後まで聞く姿勢や、常に冷静にありのままの状況を受け止める力が生活相談員に最適だと見抜いていた。見立ては的中。木下さんはみるみる頼られる相談員に育っていった。

今でも「仕事は仕事」と割り切って臨む姿勢は変わらない。逆にそれが相手の人生を背負いこみ過ぎ



木下さん。プライベートは趣味のマラソンで上手に気分転換。100キロマラソンにも挑戦する

ず、心の安定を保つ秘訣でもあるようだ。「天職などと言うのはおこがましいけれど、長く続けられているということは天職なのかもしれないですね」。どこまでも柔らかく決めつけない物言いに相談員の才を見た。

（伊藤）